



共同生活介護事業所 ケアホームCOCO

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成19年1月31日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

Tel 0439-68-1711

三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊 ひ か り 学 園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

ケアホームCOCO：〒299-1616 千葉県富津市海良 92

0439-67-3380



年 頭 所 感



皆様明けましておめでとう御座居ます

時の経つのは早いもので、ついこの間の様に思っていました、県内在住の重度知的障害者の親達（1976年）集まり、各方面に救済を訴え始めて、もう満30年が過ぎました。当時のメンバーも多くが既に旅立ち、残された者も大半が70才を過ぎてしまいました。

重い知的障害を持つ子が自立するなんてとても不可能です。其の為に家庭崩壊が起り親子共々命を絶つ者が後を絶ちませんでした。その様な中で私達は、せめてここに集まった親子だけでも家庭崩壊から守ろうと（1979年）「社会福祉法人薄光会」を作り、（1980年）重度知的障害者の入所施設豊岡光生園（定員40名）を作り（1985年）増設（20名分）致しました。

その後、「親亡き後」を見据え、やがて老年となる子達が困らぬ様に、親が元気で働ける内にと、時期尚早でしたが（1990年）特養三芳光陽園を作りました。当初の子供達は未だ利用しては居りませんが、これが、今では地域老人のお役に立って居ります。後から豊岡光生園に入所してきた利用者の数名と他施設の加齢者棟にいた知的障害者が三芳光陽園へ移籍して居ります。

元々、薄光会は県内各地の重度知的障害者の親の集りであった関係もあり、他所者がこの地に根を下し生き続けて行く為にと、地域密着型の通所施設、両ひかり学園を（1995年）鴨川と（2004年）上総湊に作りました。上総湊には障害者デイサービスセンターも併設して居ります。処が地域密着型である以上、当然、光生園にも両ひかり学園にも軽度或いは中程度障害の方も入られる様になり自ずと多機能に変化せざるを得ませんでした。

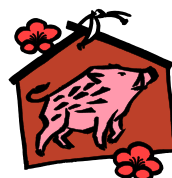
結果、自立訓練の為のケアホームも必要になり（2006年）12月1日、当法人としては初めてのケアホームCOCO（男性用）を上総湊にオープン致しました。更に三芳光陽園も将来に備え多機能且つ小人数単位の介護向きにリニューアルし（2007年）3月には竣工する予定です。又本年度は女性用ケアホームも始めなければ為りません。

長期計画にはなりますが、豊岡光生園も老朽化が著しく、居住性の改善も懸案となって居り、男女静養室、医務室、居室、重症心身障害者用居室、浴室等を充実させた内容にリニューアルを予定して居ります。

これ等が完成した暁には、時代の要請を全て満たし、地域の知的障害者及びご家族のご要望を全て受け入れた内容の法人に生れ変わります。

即ち、自立する事が難しい知的障害の子供達も、養護学校卒業後、其々のライフステージに沿い能力に応じ「親亡き後も」継続して支援を受け乍生活して行く事が可能になります。

加えて、利用者の親達の間で、「親亡き後も」安心して任せられる法定代理人を求め、一昨年（2005年）11月「NPO法人ひかり」を設立致しました。法定成年後見人制度と取り組み、既に何名かの後見申し立て作業にも取り掛かり始めました。「NPO法人ひかり」は利益相反の法人のように見えますが、被成年後見人の権利を擁護し財産を管理する過程では「社会福祉法人薄光会」の監視役として一役買って戴き、共に親亡き後も知的障害者の幸せを護る車の両輪として地域福祉向上の為、切磋琢磨して進んで行ける事を願って居ります。



社会福祉法人薄光会
理事長 山崎幸男

「か、かいちよー！」

山口三夫さんはグルメである。香辛料にはうるさい人である。ワサビ、芥子、タバスコ等など、料理にマッチしたものが見当たらないと「うっ、うっ、うっ」と言って怒る。そのくらいの人だから、カレーは大好物である。ついた渾名が「カレー協会の会長」である。

三夫さんが実家に帰るとカレー三昧となる。ある時お母さんがうっかりして買い忘れた人参抜きのカレーを出したら、籠に財布を入れてきて突き出したという。（買ってきなさいー）ということらしい。

お母さんも只者ではない。あるとき、カレーの材料を揃えて料理を始め、ご満悦の息子を尻目に、ある期待を持って肉じゃがを作った。息子が口を引きつらせて一段と大きな声で「うっ、うっ、うん、うーう、うっう」と怒り出したのは言うまでもない。お母さんは、親子喧嘩を楽しんでいる。

三夫さんには、なさねばならない日課がある。朝起きると、玄関に行き、下駄箱の上の籠いっぱいのスリッパを思い切りひっくり返す。「うっ、うっ、うっうん」とトキの声を上げる。叱られることは承知の上だ。後でけなげにスリッパを拾い集めている。

食事が終わるとトイレへ急行せねばならないが、また食堂へ舞い戻ってくる。ひどく小柄で、小太りの上半身を前に傾け、右手の甲でお尻を叩いて拍子を取りながら、自分の体重を支えるには細すぎる足をすたっ、ぱたっ と交互に押し出すように歩いて来る。

三夫さんは、今の暮らしを始めるまでは、実家の中だけの生活だった。上手には歩けなかった。ロビーと廊下の境の仕切り板に戸惑って、佇む姿を思い出す。

トイレから食堂に舞い戻ってくるのは、午後のおやつをチェックするためである。厨房のカウンターから中を覗いて動かない。もとも筋金入りの頑固だから、こうなると梃子でも動かなくなる。大好きな缶コーヒーが用意されるまではだめである。よほど飲みたいのだろうと職員たちは思っていた。

ある時厨房職員が三夫さんの目の前に人気の銘柄と不人気の銘柄の缶コーヒーを置いて、聞いてみた。「今日はサービス！ どちらか選んでみて」 だが、三夫さんはどちらにも触ろうとしなかった。相変わらず厨房の奥を見ている。時折、駐車場のほうに視線を移し、交互に気にし始めたのである。その日はバス外出の日だった。しばらくして、バスに積み込む缶コーヒーの詰まった箱二箱とコップのセットが用意されるのを見届け、駐車場に入ってくるバスを一瞥すると、（どーれ、行くか）と、おもむろに、すたっ、ぱたっ

出て行ったのである。にっこりと屈託の無い笑みを残しながら、自信に溢れた満足気な後姿であった。後には缶コーヒーが二本ぼつんと置かれていた。その後姿は、一仕事終えた町内会長のようであった。

そうなのだ。三夫さんの関心は、これから出かけて皆で楽しく飲み干すコーヒーの手配の状況なのだった。

三夫さんが時折見せる怒りの表情と「んっ、んっ、うっうん」という大きな声は、（おまえら、話の通じん奴ばかりじゃあ、わからんかあ）という声なのだろう。

（鳥居）



光陽

「改修工事、順調に進む。」

「あー戸ができたんだ」

日本財団から助成を受けた施設の改修、改造工事は順調に進んでいます。工事開始の九時から工事終了の夕方五時までは、コンクリートを砕く音や金属を切断する音、重機の操作音が施設内を賑わせています。

順調といっても入所者が生活している中で施設を改修していくわけですから、そんなに簡単にはいきません。まず居室でなかった場所に居室を作り、そこに入所者に移ってもらい、移った居室をリビングルームに改造していくという工程の繰り返しとなりますので、お年寄りたちのストレスもたいへんなものです。十二月の末には体調を崩し風邪にかかった方が二十人以上にもなりました。現在は風邪も落ち着き、一安心ですが、完成までのあと二カ月、お年寄りたちには申し訳ないですが、もう少し辛抱をしていただかなければなりません。



ところで、第一期工事で改修を終わった入所者トイレには、引き戸と鍵がつけられました。新しくできたトイレに入ろうとしたお年寄りが引き戸の前でひとこと、

「あー戸ができたんだ。」

とうれしそうにつぶやき、入っていききました。鍵をかける音が新しいトイレに心地よく響きました。



新しく建てられた施設では当たり前のことだと思えますが、十六年前に建てられた三芳光陽園では、トイレの目隠しはカーテンでした。お年寄りたちは、そういうものだと思われながらも、恥ずかしさを押し殺していたのだということを感じさせられました。

この改修工事を通して、『施設』という常識が、少しでも『家庭』という常識に近づいてくれたらと感じています。

施設長 神谷 亨

「初詣く今年も頑張りました」



一月十二日、穏やかな晴天。お年寄りたちと八幡神社へ初詣に出かけました。

年末年始、風邪の流行で外出する機会がなかったのが皆様とても喜んでおりましたが、だいぶ遅くなってからの初詣のため、参拝の人影もまばらで、お賽銭を握り締めたお年寄りたちは少しさびしそうな表情を浮かべておりました。

そんな時、太鼓の音ときれいな音楽が聞こえてきました。お年寄りたちの様子を見ていた神社の粹なはからいだったのでしょうか。お年寄りたちの表情は笑顔に変わり、

「今年も頑張れよう」

「お互い頑張りましょう」

と、自分たちにもパワーを注ぎ込んでくださいました。

普段、車いすで移動している方も、お賽銭箱までの階段を職員の手を借りて一生懸命上り、手を合わせておられました。何をお願いしたのと聞くと、

「健康だよー」とのこと。

今年もお年寄りの皆様が健康に過ごせ、共に助け合い、楽しい一年を過ごすことができますように。



石井 修平
鈴木 かつり

『小学生と贈り物』

《その1》

毎年行っ御餅つき。今年は太海小学校の児童の皆さんが交流会にやって来るようになりました。実は、二年程前に奉仕活動をしているグループが、偶然同じ処で出会い一緒に交流を持った児童の皆さんだったのです。

自分達で田植えをし、収穫したお米で炊いたご飯をおにぎりにして、お土産に持ってきてくれました。

大勢でついた御餅は、千切って絡めるお母さん達から

「今年の御餅は、柔らかくて良く延びるねえ」と感心される程の出来栄でした。

楽しい時間と美味しい贈り物・・・ご馳走様でした。



《その2》

八年程前から恒例になっている、クリスマス会の前に行う曾呂小学校の児童との交流会。蜜蝋でキャンドルを作ったり、クッキーの家を作ったりしています。今年はスノーボールというクッキーを作りました。利用者と児童がレシピ通りに作業を進めます。グループ毎に作るのですが、必ず足を引っ張るのが男性職員です。

「もう、あっちへ行行って・・・」と皆の視線。

それでも出来上がったのは、バターの香ばしい香りの美味しそうなクッキーでした。粉だらけの顔で、お土産にクッキーを戴いた時の嬉しそうな笑顔・・・ご馳走様でした。



《石塚》

『新人です』



始めまして。十二月より鴨川ひかり学園で勤務しております、木内一雅と申します。始めて福祉関係の仕事をするので不安でいっぱいでしたが、就労試験の二日間で施設の雰囲気や利用者の方々と職員の関わりを見て、「是非、此処で働いてみたい!」と思う気持ちが強くなりました。こうして福祉の世界に飛び込んだ訳ですが、職員としての初仕事は送迎バスの添乗でした。

利用者の方が

「川上さんは? 木内さん、やだ!」

「.....」

へこみます。



散歩の時の急な登り坂では、先頭を歩いていた利用者の方が私の所まで引き返してきて、私の手をとり坂道を登ってくれました。

(この新人しかたねーなーと思われてしまったかもしれません.....)

“ 帰りの会 ”では、

「木内さん、しっかりー」と励まされています。こんな風に、利用者の皆さんと出会えた事で、楽しく色々と学ぶことの多い毎日です。



《木内》

学園新聞

5月28日

「お年玉ありがとうー!」

年が明けたある日、ゴトーさんはたこあげをしようとして、グラウンドに出てきた。天気は良かったが、北風がビュービュー吹いていて、かなり肌寒い……。いまいち、たこあげのやり方が分からないゴトーさんであったが、あまりの寒さにいたたまれず、とにかく、たこ糸を引っぱりながら走りはじめた。

グラウンドをグルグル走り回っているゴトーさん。でも、たこの方は……。ガリガリと地面をこすりながら、ゴトーさんを追っかけている状況で……

「ゴトーさん、風向きを考えないと!」 思わず声をかけてしまった僕。でも夢中になって走り続けるゴトーさんを見て、黙って見守る事にした。でも、たこはガリガリ地面をこするばかり……。『ゴトーさん、風下から走って!』と声をかけながら、ゴトーさんに歩み寄ろうとしたその時、風下からゴトーさんが全速力で走り始めた。強風に煽られて、たこは見る見るうちに雲ひとつない青空に上がり……

「やった……。やった……。」 振り返り、空を泳いでいるたこを見ながら、自分に言い聞かせるようにつぶやくゴトーさん。ガッツポーズも加わり、勝者の笑顔に!

あの時、ゴトーさんが風下から走り出したのは、きつとたまたまだと思う。でも、たまたまでも結果(たこが上がる)が出て、そしてその結果を導いたのは、ゴトーさんが諦めずに走り続けたからなんだろうね。きつと。

これって、自分たちにも思い当たる事、あるんじゃない? 「何事もやってみないと始まらない、そして大切なのは“続ける事”」

ジャンプしてガッツポーズを繰り返しているゴトーさんの姿を見ながら、そんな言葉がふと、浮かんだ。なにげない、普段の学園生活の1コマだけど、その中にも利用者、職員隔てなく、共有出来る感動や学ぶべきものがたくさんある。

僕はもう、お年玉をあげる立場になってしまったけれど、正月早々、ゴトーさんから大きな、大きなお年玉をもらってしまった! 今年はいい事ありそうだ……

(鈴 鹿)



「ベストショット!」



「クリスマス会、盛り上がりすぎてきたけれど、ぼくは食べるだけ食べたからもう、いいや!」 楽しいクリスマス会のまっ最中、けいいちくんはちよつと飽きてしまったようです。

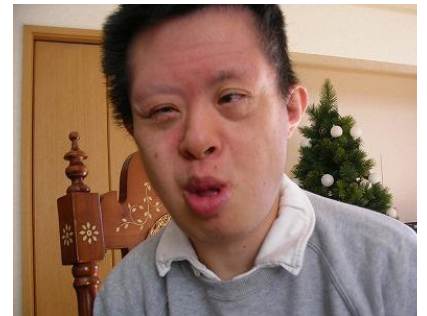
「おともだちのマネしてもいい?」

「たっちゃんだよ!」

「先生、撮って! 撮って!」

(碓 井)

coco • de • ココ



～COCO の休日～

土、日のCOCOの朝は とっても のんびり
朝食ができると 「ごはんだよー」の声
それぞれのペースで集まってくる
みんなが食べ終わっても まだ寝ている人もいる
「天気がいいねえ」
「洗たく物干して でかけるか？」
「どこ行く？」
「散歩？」
「ドライブ？」
「温泉？」
「まずは ひげそるかぁ」
「で、だれからにする？」
(井上)



ちよつといっく



「祝・成人」

湊ひかり学園



美紀さん



勝さん

大人への一歩

「人は生まれて二十年経つと、大人になる・・・」
形式的な言い方だけど、その形式にはまる事で人は自覚し、成長して、大人の道を歩んでいくんだと思う。

“形式的に”お祝いの場という事で、おめかしをしてみたけれど、きっと二人は“自覚”してる！だって、シャツのボタンをはめる手が今まで、いちばんスムーズだったもん。本当は部屋中をかけ回っていたのに、お祝いの会の時は、最後まで我慢して座っている事が出来たもん。周りの人たちがお祝いしてくれているのを知って、最高の笑顔を見せてくれたもん。

二人とも分かっているんだよ！自分がスターラインに立ったって事を。

人生って長いようで実は短い。この二十年間だって、ほら、あっという間だったでしょ？だから、“今”を大切に・・・今日を新たなスターラインにして、日々、頑張って楽しい人生を築いていこう！

大人の道を歩み始めた勝さん、美紀さん、おめでとうございます！

(鈴 鹿)

鴨川ひかり学園

今年、成人を迎えられた義徳さんのお母様より、お祝いの会の際にコメントをいただきました。

「義徳が着ているスーツは、養護学校の卒業式で着た時にはブカブカだったのですが、今日は体

にぴったりでした。子供の成長を感じさせます。親子で楽しく過ごす事が出来ました。ありがとうございます。



くつろぐ(?) 義徳さん

*個人情報保護法に基づき、写真、名前の掲載については本人、保護者の承諾を得ております。

【編集後記】

『きらめき』新年第一号をお届け致します。

昨年より福祉の世界は大変革の時期を迎えています。先行きが見えず、不安ばかりで、この新年はまさに「暗闇からのスタート」なんて言えるのではないのでしょうか。ただ、この状況を見守っているだけでは「夜明け」は訪れません。

こんな言葉があります。「永遠に続くものなんて存在しないんだから・・・」いい時があれば、悪い時だってある。そしてまた状況が変わって・・・こんな時こそ、大胆に行きましょう！

今年もよろしく願致します。(広報委員会)